

福井

「福井全研ニュース第 7 号」

「ぽ〜れぽ〜れ 5 月号」福井県版特別号

発行日 平成 30 年 5 月 25 日
 編集・発行 公益社団法人 認知症の人と家族の会 福井県支部
 事務局 〒910-0017
 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内
 TEL: 0776-28-2929 FAX: 0776-63-6756
 E-mail: monowasure@fmatsubara.com

ヒストリー福井 第 5 章「戦国一の美女「お市の方」と福井」

第 4 章で紹介した「柴田勝家」の妻「お市の方」を紹介し、第 2 章で紹介した「織田信長」の『妹』として有名です。

織田信秀の娘に生まれ、兄・織田信長の命により近江国の浅井長政の元へと嫁ぎました。

政略結婚ではあったものの、浅井長政とお市の方の間はまさにおしどり夫婦な仲睦まじかったと言われており、二人の間には、嫡男・次男と浅井三姉妹と呼ばれる長女で後の豊臣秀吉側室（所謂「淀殿」）となる「茶々（ちゃちゃ）」・次女で京極高次の正室となる「初（はつ）」・三女で徳川秀忠の正室として寵愛をうける「江与（えよ）※江（ごう）とも」らを設けました。長政は 1573 年に信長と争って敗北、死亡します。3 人の娘とはともに暮らし、その暮らしは 9 年間に及びました。信長はお市の方とその娘たちを気にかけて、かなり贅沢をさせていたようです。1582 年に本能寺の変が起こり、庇護者である信長が死去すると、



お市の方

秀吉の勧めによって柴田勝家と再婚することになりました。

勝家のもとに嫁いでわずか 1 年。

1583 年に勝家は秀吉と賤ヶ岳で争うことになり、勝家は敗北します。

自分の城である北ノ庄に退却した勝家ですが、もはやこれまでと自害します。

その際、勝家はお市の方に逃げるよう勧めています、お市の方は「浅井落城で逃げてまともしや」と、夫である勝家とともに自害することになります

戦国の世の常といいますか、あちこちと翻弄されたお市の方ですが、家族には恵まれていたようですので、彼女なりに幸せだったのかもしれない。

「西光寺」

柴田勝家、お市の方の菩提寺でもあり、勝家、お市の方をはじめ一族の墓、勝家愛用といわれている梅の木、奇橋として有名だった半石半木の「九十九（つくも）橋」の橋梁（きょうりょう）などが残されています。



「いざ！！全研へ！！」

「福井全研のフレイベント 認知症啓発講演会」

10 月 28 日の全研に向けて、もう 5 月が終ろうとしています。

最近、時間がたつのが早くて、焦っています。

6 月 3 日に福井県と家族の会共催で認知症啓発講演会「みんなで支えよう
認知症」を開催いたします。福井全研と同じ会場で行います。



弁護士の池上哲郎氏

今回は「認知症になっても安心して暮らせる社会へ」をテーマに福井県支部 松原代表が「刑事事件から見える介護家族の「思い」を考える」をテーマに京都総合法律事務所 池上哲郎氏が講演を行います。

この事件は「地裁が泣いた悲しい事件」「異例の温情判決」として有名な「京都認知症母親殺害心中未遂事件」です。

介護家族が極限まで追い詰められた事例から被告人の弁護を担当した池上先生と共に介護する家族に寄り添いながら「これからの社会にあるべきもの」について考え合います。

池上先生は福井県出身。世話人の中に池上先生の高校時代のクラスメイトがおりこの講演会を開くことが出来ました。

現在、講演会の参加希望は 100 名を超え、近年にない多数の参加者になります。



福井の味 第 3 弾「へしこ」

第 3 弾は福井県の郷土料理「へしこ」です。

へしことは、鯖に塩を振って塩漬けにし、さらに糠漬けにした郷土料理、および水産加工品です。若狭地方および丹後半島の伝統料理で、越冬の保存食として重宝されていました。若狭の特産品・土産物として、漬け込む魚の種類も「鰯へしこ」「河豚へしこ」などが加わり、福井県で親しまれています。糠を軽く落とし火で炙ったものはお茶漬けや酒の肴に良く、新鮮なものであれば刺身で食べることもできます。

福井県内の居酒屋には「へしこ」「へしこ茶漬け」のメニューがあります

2007 年 12 月、

「さばのへしこ」として
農山漁村の郷土料理百選の
ひとつに選定されました



癖のある味「へしこ」は写真の通りとても塩分があります。ごはんと一緒に食べたり、お酒の肴としてちびりちびりと召し上がるのが福井「通」です。「へしこ」は福井駅構内のショッピングセンター「プリズム福井」内でお買い求めいただけます。

介護独楽吟 大大・大募集

「介護独楽吟」って何? No5

幕末の福井の歌人・国学者の橘曙覧は清貧に甘んじ家族との生活の中に喜びや楽しみを見出し、「たのしみは」で始まり「する時」で終わる歌 52 首を詠み歌集「独楽吟」として残しました。

認知症の人と家族に対する理解と支援を多くの皆さんに求めるため私どもの「介護独楽吟」を全研会場だけ手なく福井市内の公共機関等に掲示させてもらいたいと考えています。

現在各支部に「介護独楽吟」のポスター作成依頼をさせて頂いています。

作成にあたり不明な点がありましたら、本部または福井県支部までご連絡下さい。

多くの皆様から「介護独楽吟」を福井県支部にお寄せいただきたいと思います。

※ 独楽吟はあまり形式がなく、みなさまに親しみやすいものと思います。ぜひ日記感覚で筆を執っていただけたらと思います。

送付先 認知症の人と家族の会福井県支部事務局

〒910-0017 福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内

FAX: 0776-63-6756 E-mail monowasure@fmatsubara.com

介護独楽吟

福井県支部世話人

たのしみは車椅子にて曾孫抱き

歯のない笑顔見交わす時みるとき

言葉の無い母の気持ちになって

母を在宅介護中 七十代女性

たのしみは湯あがり一杯飲むビール

お義母さん今夜はゆつくり

朝まで寝かせてね

在宅介護中 六十代女性

たのしみは友と向き合い囲碁試合

さしつさされつ勝ちそうなとき

要介護本人 六十代男性

たのしみはスマホに届く孫の笑顔

夫婦げんかもしばしお休みの時

要介護本人 六十代男性

たのしみは「あるある」と手を打ち

相槌して集うとき

介護専門職 五十代男性



運営委員の声

福井全研に向けて、現在福井県内の関係各所に後援の依頼と広告掲載依頼、また職能団体の総会等で全研案内を行っています。また、同時にチケット販売も行っていて、本業よりも全研の業務の方に熱が入っている方もいます。案内の際に耳にする話として「いつ、親や自分が認知症になるかわからないです。身近な話ですもんね」と共感を得て頂ける方がたくさんいます。

全研の活動に賛同いただいている方の声はとても心強いです。

先週、若年性認知症の人の集いにサポーターとして参加してきましたが、当事者の方が認知症になって辛かったこと、何とか受け入れ乗り越えたこと、のお話を聞くとこが出来ました。当事者本人の声が何よりも実感があり、その時に感じた「認知症の人と家族が暮らしやすい社会を作りたい」という思いを全研に参加頂いた方に感じてほしいなと思いました。